

用化研究のみであり、之が成否は各方面より注目されてゐる。

即ち國防生産力の調期的増強を圖することは大東亞戦争先遂上の喫緊要務であるが生産力の増強は一面科學、技術の進歩昂揚を絶對要請し、かゝる見地より既に政府は昭和十四年國家總動員法に基く總動員試驗研究令を制定、これに依つて國防力増強のための總動員物資の生産若しくは修理を業とするもの又は試驗研究機關の管理者に對し國家總動員上必要な各般の事項の試驗研究を命じ、これが研究の結果を著々工業化に移し成果を收めて來たのであり、商工省關係に於いては特殊工作機械等試驗研究命令に基く試驗結果の實用工業化が行はれ航空機、造船等

國防生産力の増強に多大の成果を發揮してゐるものである。

官營試驗研究所の技術力も

總動員

時局重點産業の飛躍的且つ迅速なる生産増強をはかるには工場、事業場等生産現場の實態把握、更に進んでは生産管理、配給管理、勞務管理、工場施設、物資調達等生産活動の全分野に互り強力積極的な生産指導を行ふことが當面もつとも要請さるゝに鑑み商工省では工務官、鑛山官の活動強化、重要業種別能率委員會の設定、また側面的には工場能率診斷班による科學的能率指導を行ふ等、即ち生産行政の

批評と紹介

谷内 治 著

安南の漆

漆液機構の轉換期に商工技師として長くその衝に當られて來た谷内氏が豊富なる統計の蒐集と、多年の實地調査の記録等を輯録されて「安南の漆」の全貌を紹介されたもので、南方漆液に關する本邦最初の纏つた文献と謂へる。

著者は全文を出来る丈平易化し、素人にも極く解り易い行文で解説し、所々安南語や風土情勢を織込み乍ら讀者を引ずつて行く。この種のものには固苦しいものになり勝ちなのに、肩の凝らない形式で、その趣旨が説かれ、挿入の寫眞も圖解と相俟つて親切である。

本文には一貫して漆液の重要性が強調され、

これが需給の根本問題に就ても種々なる實情が統計等に依つて解説され多大の示唆を與へて居る事と明治、大正より昭和の統制經濟機構に到つた輸入漆液の情況が明瞭されてある點が特記される可きものであらう。殊に安南漆液の取引事情に就いて著者は可なり具體的に「取引経路や「安南人漆問屋と其の供給能力」等の調査を圖表にし土語を交へた説明がされてあつて面白い。

其の他安南漆の栽培法、採集法、製漆法、塗裝法や特殊なる工具のこと、安南漆に依る工藝界の現況等詳細なる現地調査の報告が輯録されてあつて、専門技術者の手引書としてのみならず、南方資源活用の書として一般にお勧めしたい。(安價) 昭和十八年刊 定價三圓

重點を現場の把握と生産指導に置いてゐるが、今回商工省管下の東京、大阪兩工業試験所、機械試験所燃料研究所、陶磁器試験所等各試験研究機關の有する生産技術陣を總動員以て現場の生産技術指導に當たることとなつた。

而して商工省としては既にこれ等試験研究機關の有する所謂官有特許を公開、統制會を通じこれを民間工場に傳授したが更にその技術員を生産現場に進出せしめ民間工場の技術指導に當ることになつたのは時局重點産業の調期的生産増強の上にこれが期待は極めて大きい。

皇恩に浴す敵性特許

思へば敵の特許がどれだけ日本の生産力向上を妨害し我に屈辱的壓迫を加へて來たか、それもこれも今は昔、昭和十六年十二月八日、敵米英が描いてゐた世界制覇の甘き武陵桃源の夢は木端微塵に打ち砕かれた、武力だけではない、逞しい日本工業堂々の進撃は星條旗とユニオンジャックを踏み碎いて齒車のやうに一歩々々大東亞共榮圈の建設へ力強い歩みを續けてゐる。だが一層の戦力増強をはからねばならぬ。こゝに敵特許を濫用する妙手が生れた。生産力擴充の隘路となつてゐた敵の特許を日本的性格を有つ新日本産業技術として十二分に活用することがそれで、既に取消し、又は專用免許した特許權は千四百五十件にも上つてゐる。

併し問題は之らの特許を實施するに當り相當の準備を要し直に實施し難いものもあるので特許局では五月一日から十日間同局陳列館で敵性特許發明展示